

五輪通の拡幅について

- ・ 都市計画の決定
- ・ 事業化した場合の進め方

2024年3月

札幌市交通計画課
札幌市道路課



本日の説明会

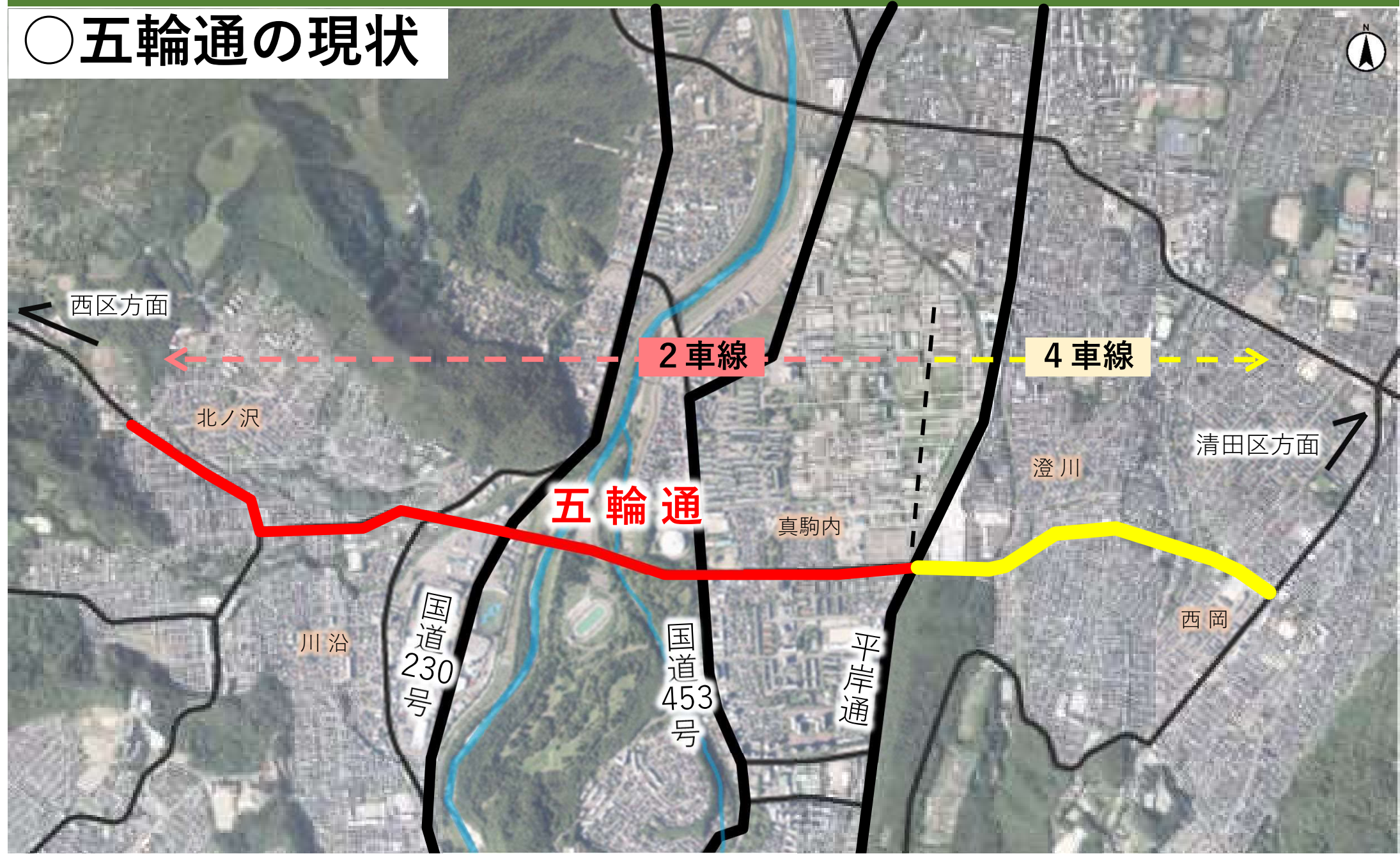
- 五輪通の拡幅検討について、札幌市の考える道路拡幅案を説明し、ご質問にお答えします。
- また、都市計画決定に向けた原案を作成するため、ご意見を伺います。
- 事業化した場合の事業の進め方についてもご説明します。

1. 五輪通の拡幅の必要性
2. 道路線形・道路幅の考え方
3. 今後の進め方（予定）

1. **五輪通の拡幅の必要性**
2. 道路線形・道路幅の考え方
3. 今後の進め方（予定）

1. 五輪通の拡幅の必要性

○五輪通の現状



1. 五輪通の拡幅の必要性

○五輪通の役割

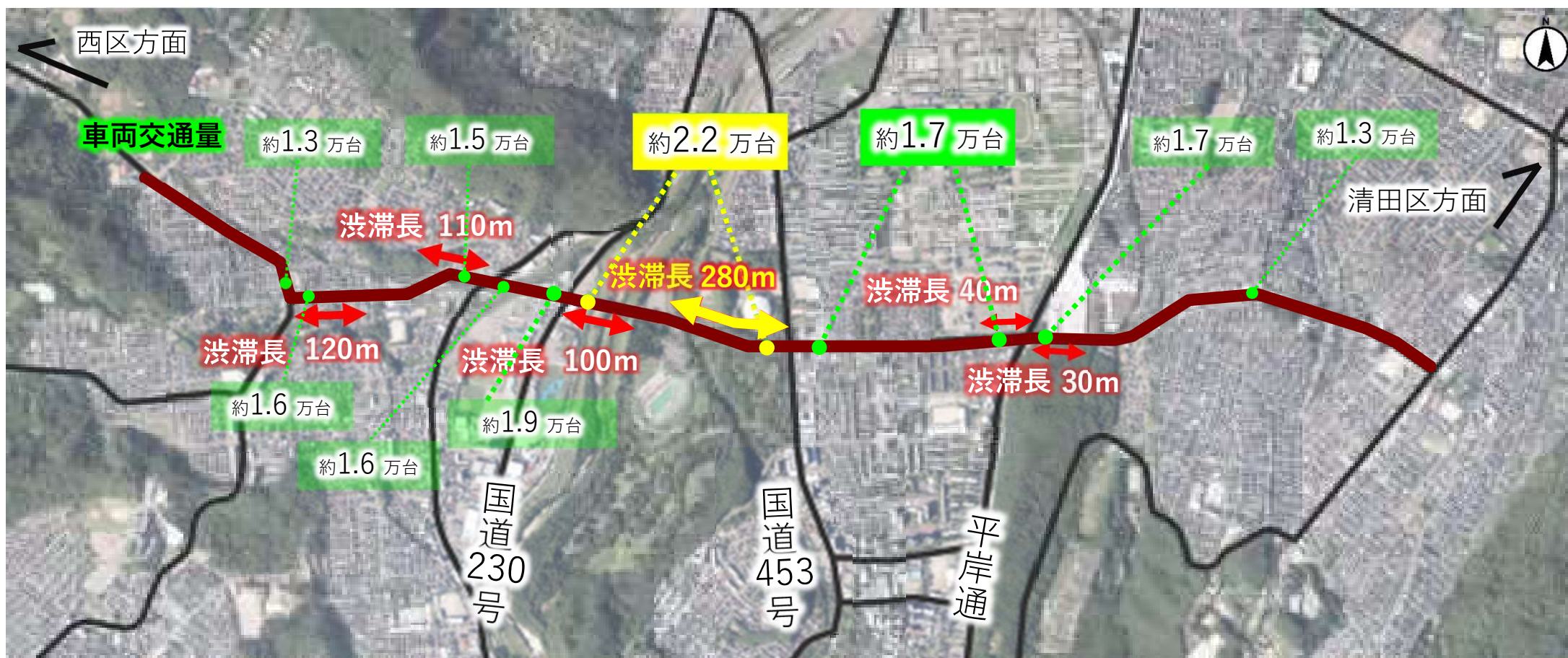
- ・緊急輸送道路 ~災害時の物資供給や、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線~
⇒緊急輸送道路のネットワークの強化を図る



1. 五輪通の拡幅の必要性

○交通状況（平日調査）

- ・ 西区方面と南・豊平・清田区方面を結ぶ主要な経路として、13,000～22,000台/日と多くの車両が利用
- ・ 特に国道453号交差点前後の交通量が多く、顕著な渋滞が発生



1. 五輪通の拡幅の必要性

○交通状況（周辺道路との比較）

- ・五輪通の2車線区間は周辺の4車線道路と同程度の交通量がある



1. 五輪通の拡幅の必要性

○渋滞の状況



冬：国道230号付近まで渋滞発生



夏：五輪小橋付近まで渋滞発生



1. 五輪通の拡幅の必要性

10

○拡幅の必要性（まとめ）

- ・ 骨格道路網の外環状道路、第1次緊急輸送道路に位置づけられている重要な道路である。
- ・ 2車線道路であるため、特に国道453号交差点前後で、**顕著な渋滞**が発生している。

円滑な交通を確保するため、**国道230号～平岸通**区間を「**2車線→4車線**」に拡幅する必要がある。



1. 五輪通の拡幅の必要性
- 2. 道路線形・道路幅の考え方**
3. 今後の進め方（予定）

2. 道路線形・道路幅の考え方

○これまで開催した説明会について

- 令和4年5月開催の説明会（沿線の土地又は建物を所有する皆様を対象）
 - ・当初、現状の道路線形を基本に、安全性や施工性、沿道状況等を踏まえ北側に拡幅する考え方を示した。
 - ・五輪通南側に面する道営住宅跡地を活用できないかとの意見をいただいた。
- 令和5年2月開催の説明会（沿線の土地又は建物を所有する皆様を対象）
 - ・上記の意見を踏まえ検討し、民有地への影響の低減等の観点から、一部区間の道路を曲線として、南側の道営住宅跡地を活用した線形に変更した考え方を示した。
 - ・道路線形や幅員に対する考え方など、様々なご意見をいただいた。

2. 道路線形・道路幅の考え方

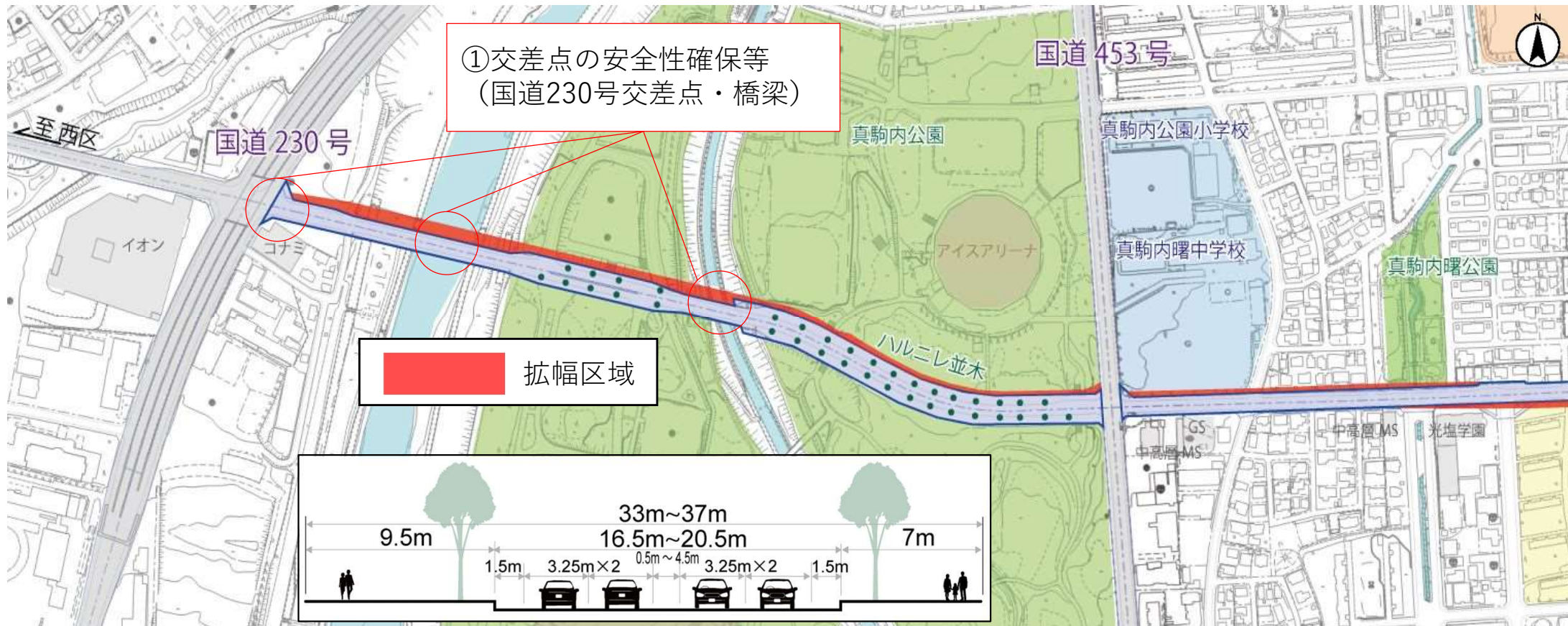
○これまで開催した説明会について

- 令和5年10月開催の説明会（沿線の土地又は建物を所有する皆様を対象）
 - ・より様々なご意見・ご質問を伺いやすい環境を検討し、参加申し込みをいただいた方を対象に個別説明方式で実施。
 - ・令和5年2月開催の説明会同様、南側の道営住宅跡地を活用した線形を示した。
 - ・事業スケジュールに関する事など、様々なご意見・ご質問をいただいた。
 - 令和5年12月開催のパネル展示型説明会（広報さっぽろなどでお知らせ）
 - ・道路利用者等から幅広く意見を収集するために開催
 - ・これまで同様、南側の道営住宅跡地を活用した線形を示した。
 - ・道路利用、公園利用など様々な観点から、道路の線形や幅員に対する考え方など、ご意見をいただいた。
- 地域全体への負担や安全性、冬期を含めた円滑な交通環境等を考慮した結果、令和5年2月にお示しした道路拡幅案を変更せず、引き続き検討を進めることとしました。

2. 道路線形・道路幅の考え方

○道路線形の考え方①

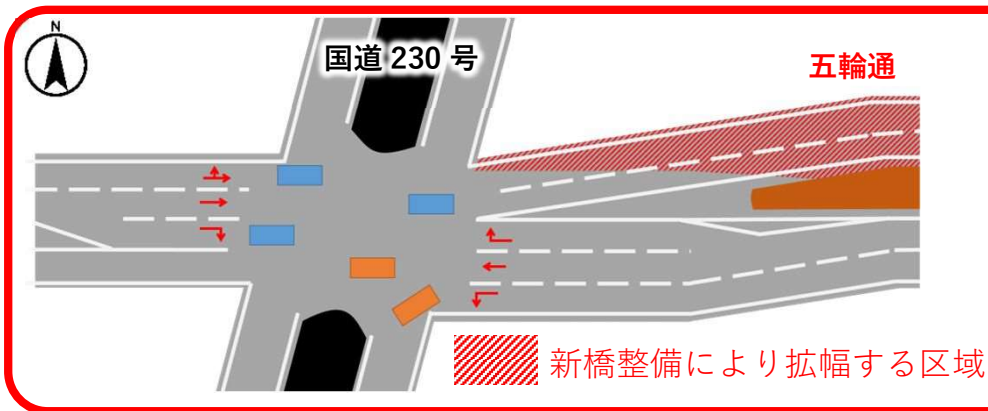
- ・ 国道230号との交差点形状や、橋梁の施工性を考慮し、**北側に拡幅**



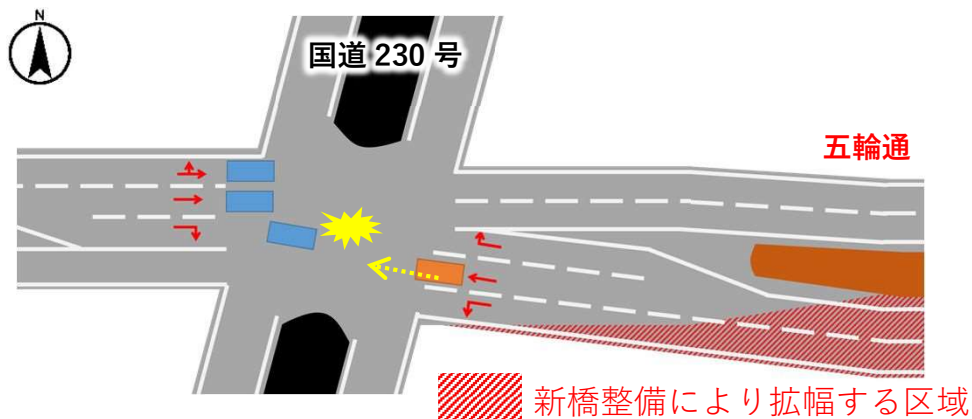
2. 道路線形・道路幅の考え方

① 交差点の安全性確保（国道230号交差点・橋梁）

- ・ 既設橋が寿命を迎える際の大規模修繕や、道路拡幅の施工時の通行止め回避
→ 既設橋を活かし、隣接した新設橋を架けることとする。
- ・ 五輪大橋の新設部が南側の場合、国道230号交差点部では、西向き車両と対向車両による正面衝突事故が発生する可能性を懸念
→ 北側に新設橋を整備する方が安全上望ましい。
- ・ 南側沿線の堅牢建物を避けるには北側への拡幅が望ましい。



- 五輪大橋の北側に新橋架設
 - ・ 交差点を通過する車両が安全に走行可能

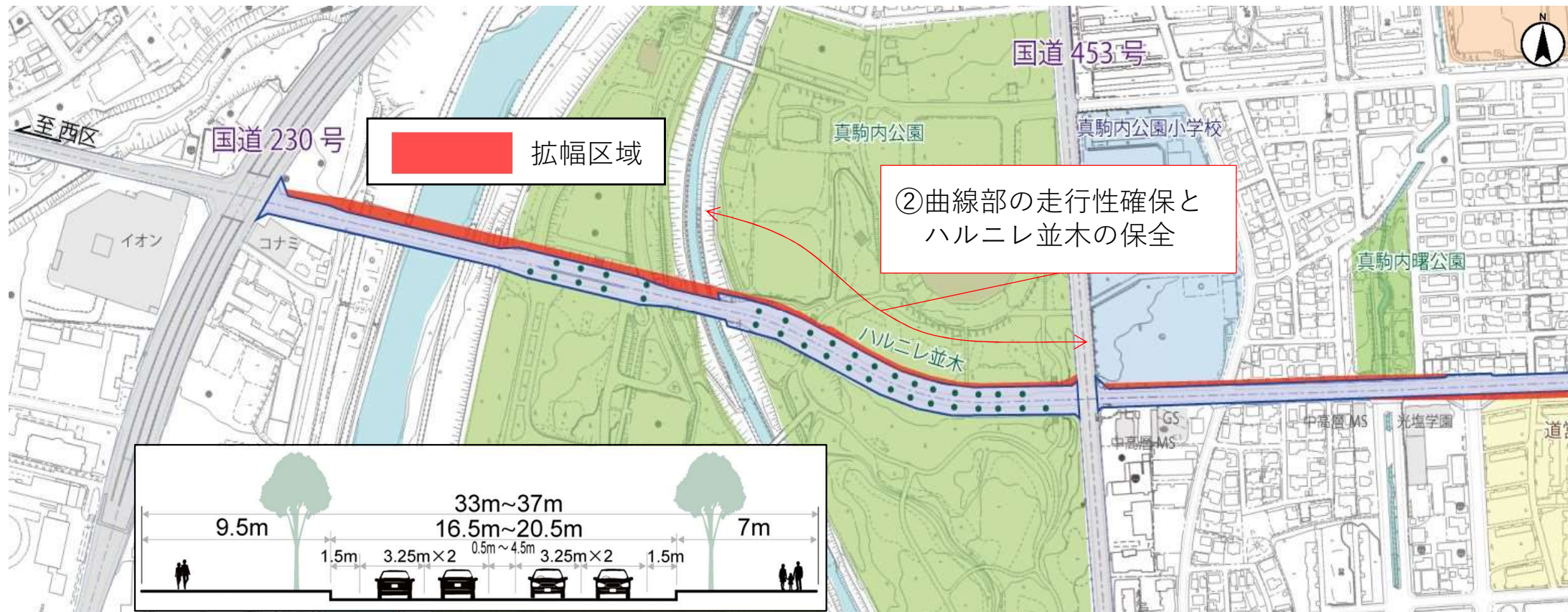


- 五輪大橋の南側に新橋架設
 - ・ 西進車両と対向車が交錯の危険
 - ・ 五輪通南側の堅牢建物が支障となる

2. 道路線形・道路幅の考え方

○道路線形の考え方②

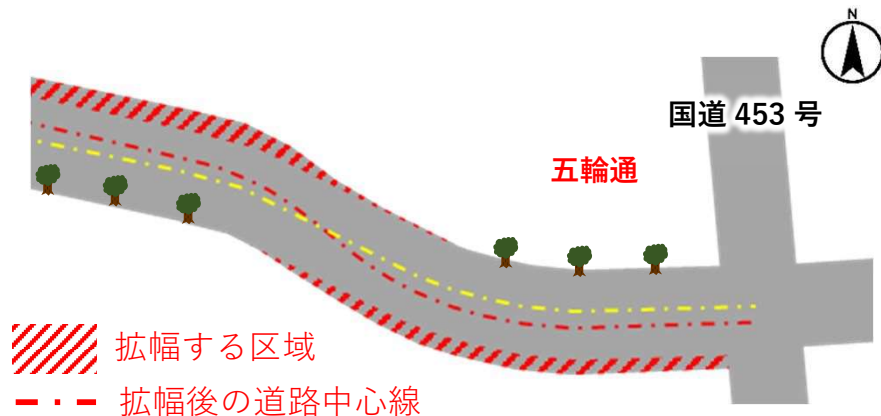
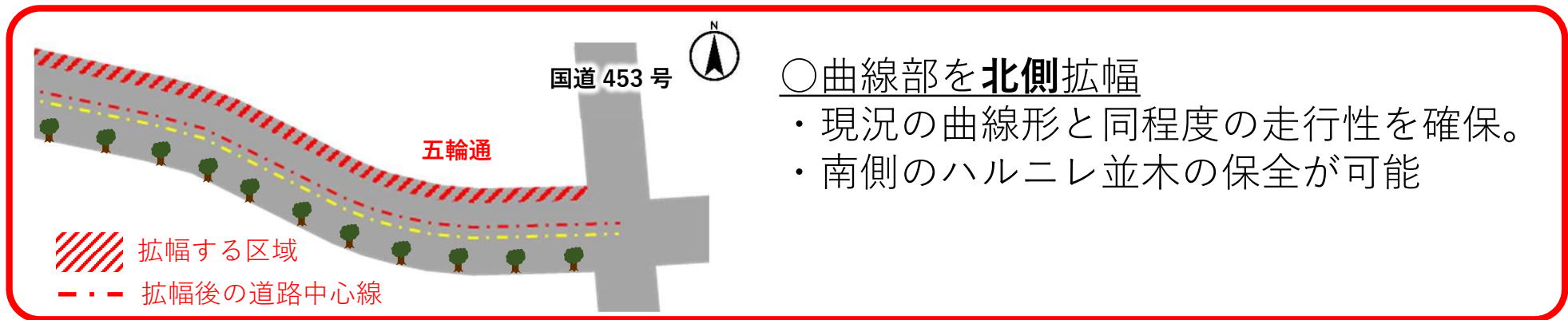
- ・ 曲線部の走行性確保とハルニレ並木の保全の観点から、**北側に拡幅**



2. 道路線形・道路幅の考え方

② 曲線部の走行性確保とハルニレ並木の保全

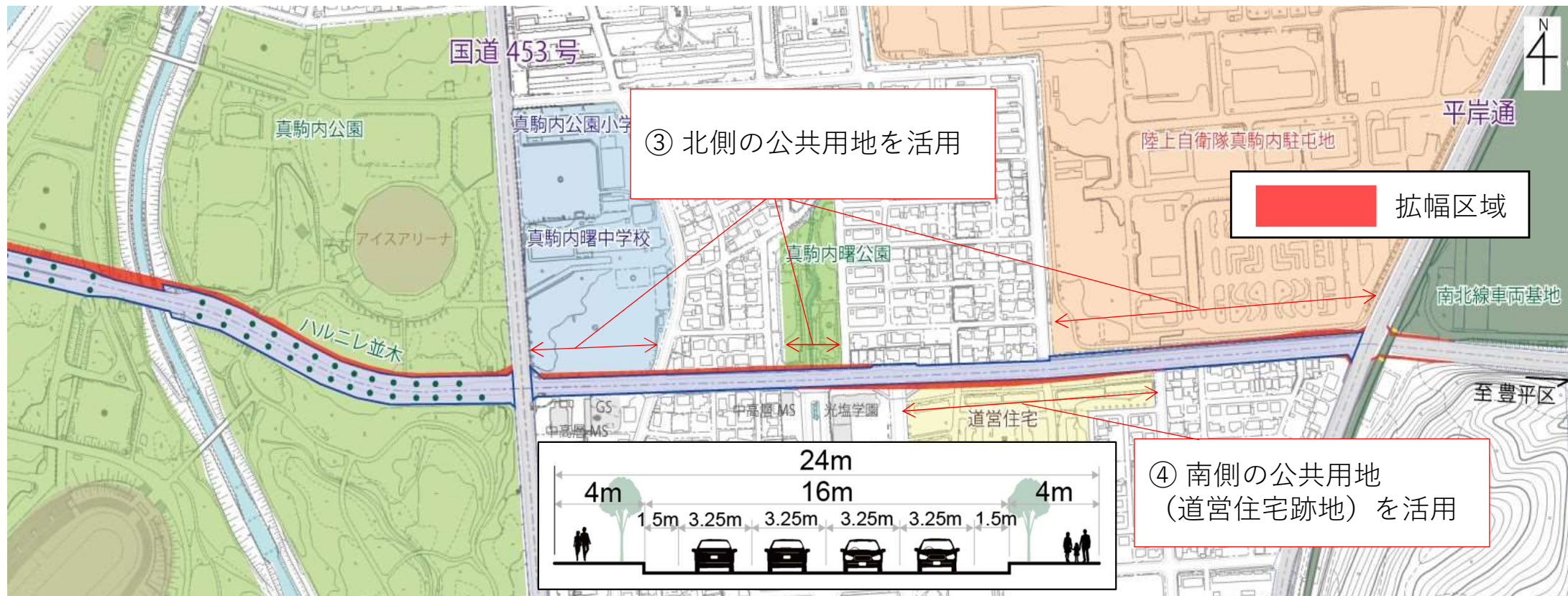
- ・ 曲線部の途中で北側拡幅から南側拡幅に切り替えた場合、現況より急なカーブになり走行性が低下する。
- ・ 当該区間はハルニレ並木が形成されており、北側拡幅の場合、南側のハルニレ並木を保全することが可能になる。



2. 道路線形・道路幅の考え方

○道路線形の考え方③④

- 沿線の学校、公園、自衛隊、道営住宅跡地など
公共用地を最大限活用して拡幅



2. 道路線形・道路幅の考え方

③④公共用地を最大限活用

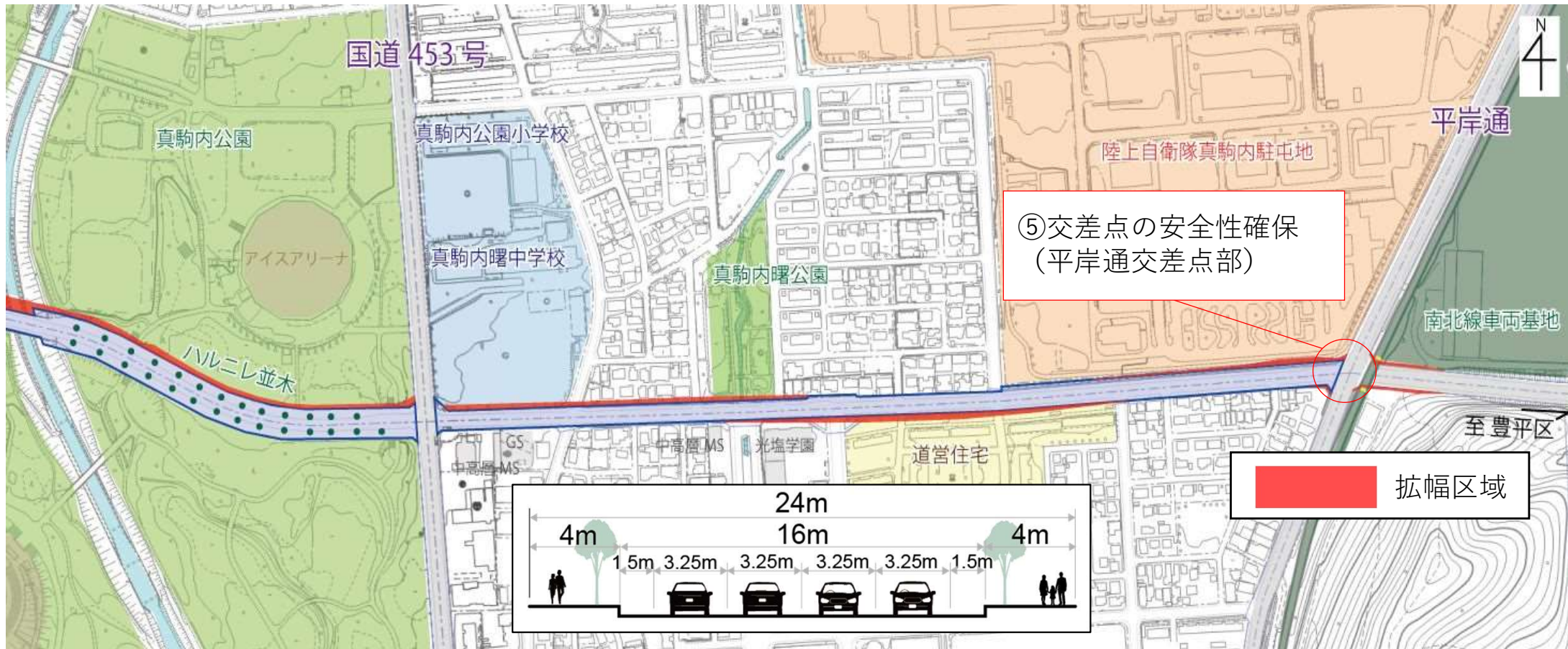
- 沿線の学校、公園、自衛隊、道営住宅跡地などの公共用地を活用し、地域の影響を低減



2. 道路線形・道路幅の考え方

○道路線形の考え方⑤

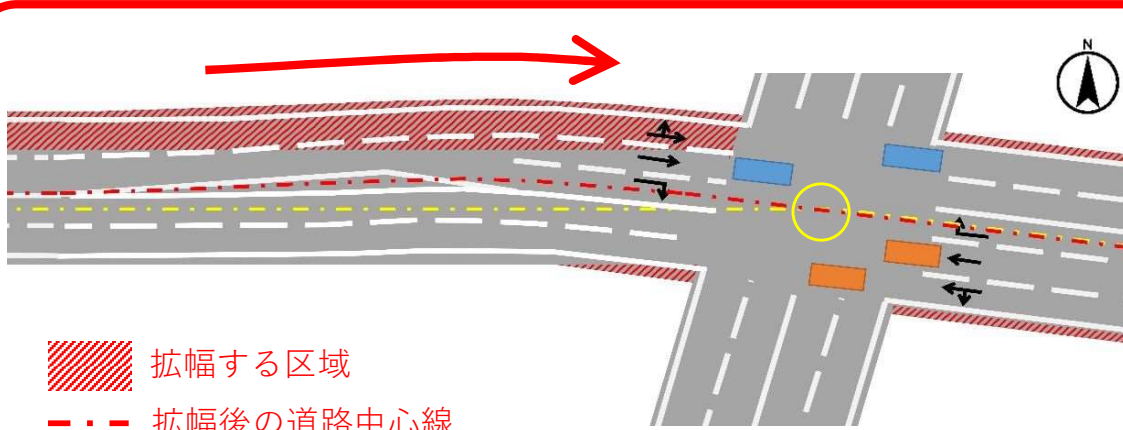
- ・ 平岸通の交差点の安全性、走行性を考慮し、**北側に拡幅**



2. 道路線形・道路幅の考え方

⑤ 交差点の安全性確保（平岸通交差点部）

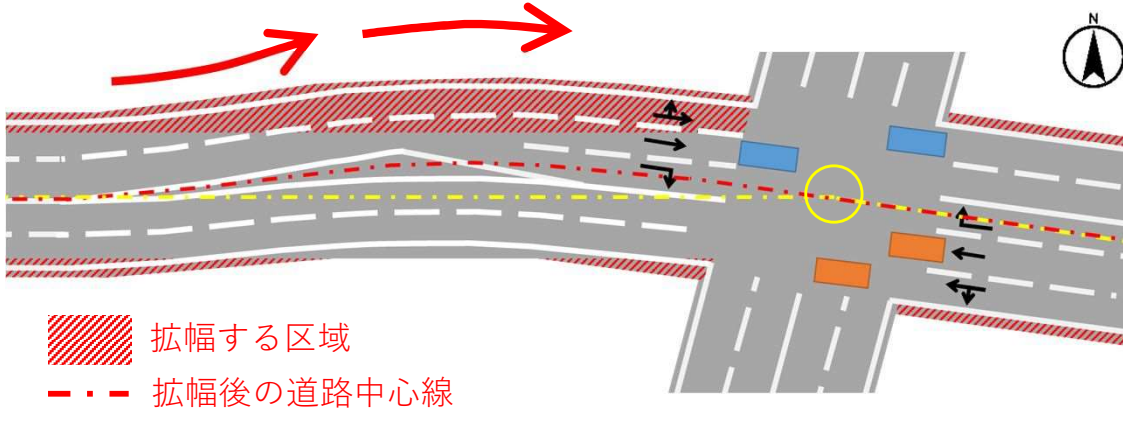
- ・現状の道路線形が交差点部で屈折しており、交差点内の安全性が低い状況である。この屈折を改善するためには、交差点西側部分を北側に拡幅する必要がある。
→北側拡幅が望ましい。



○北側拡幅の場合

- ・交差点手前での北側へのカーブが最小限で済み、スムーズな交差点への進入が可能。車両が安全に走行できる。

■ 拡幅する区域
- - - 拡幅後の道路中心線



○両側（もしくは南側）拡幅の場合

- ・北側へのカーブが大きく、交差点手前で道路が大きく蛇行。走行性が低下してしまう。

■ 拡幅する区域
- - - 拡幅後の道路中心線

2. 道路線形・道路幅の考え方

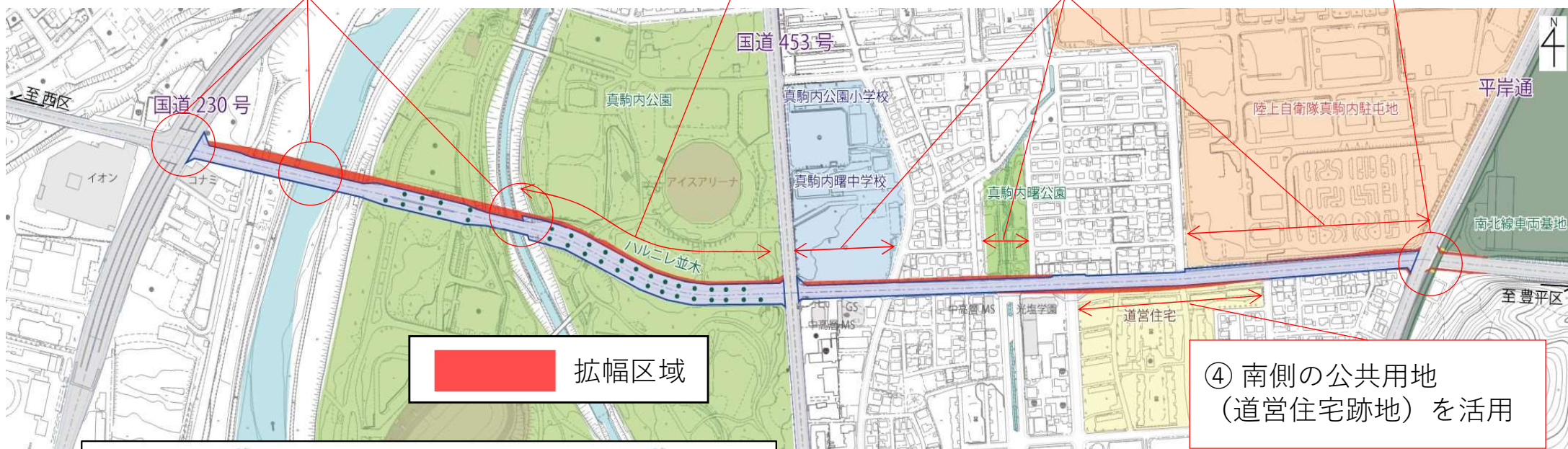
○道路線形の考え方（まとめ）

① 交差点の安全性確保等
(国道230号交差点・橋梁)

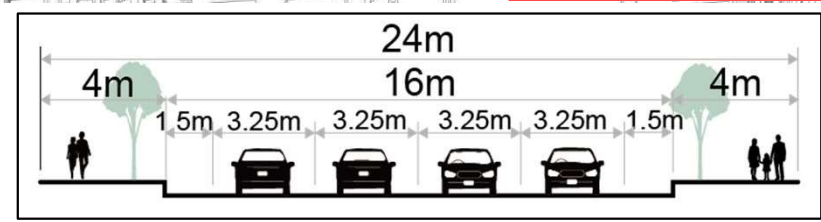
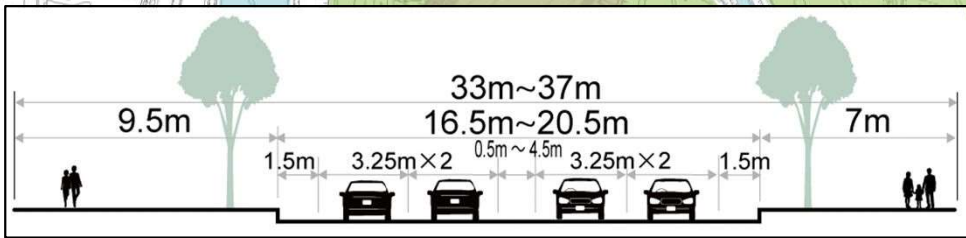
② 曲線部の走行性確保と
ハルニレ並木の保全

③ 北側の公共用地
を活用

⑤ 交差点の安全性確保
(平岸通交差点部)

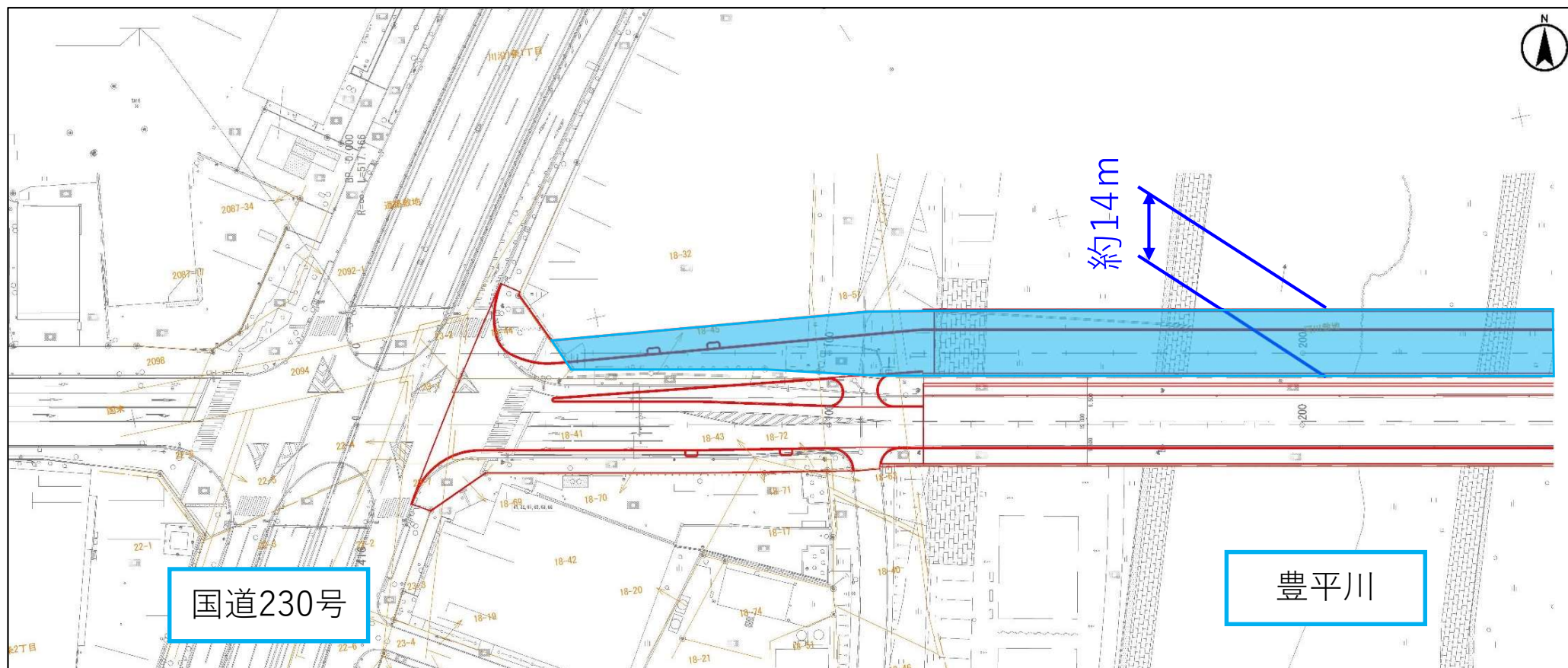


④ 南側の公共用地
(道営住宅跡地) を活用



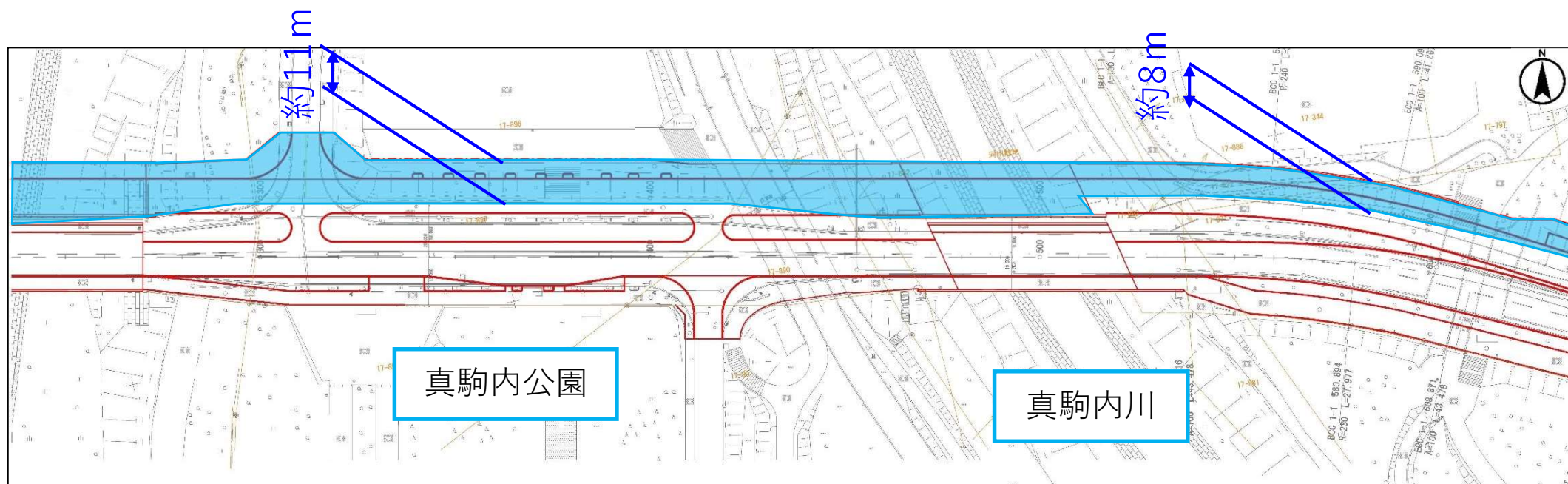
2. 道路線形・道路幅の考え方

○検討案による道路拡幅範囲イメージ



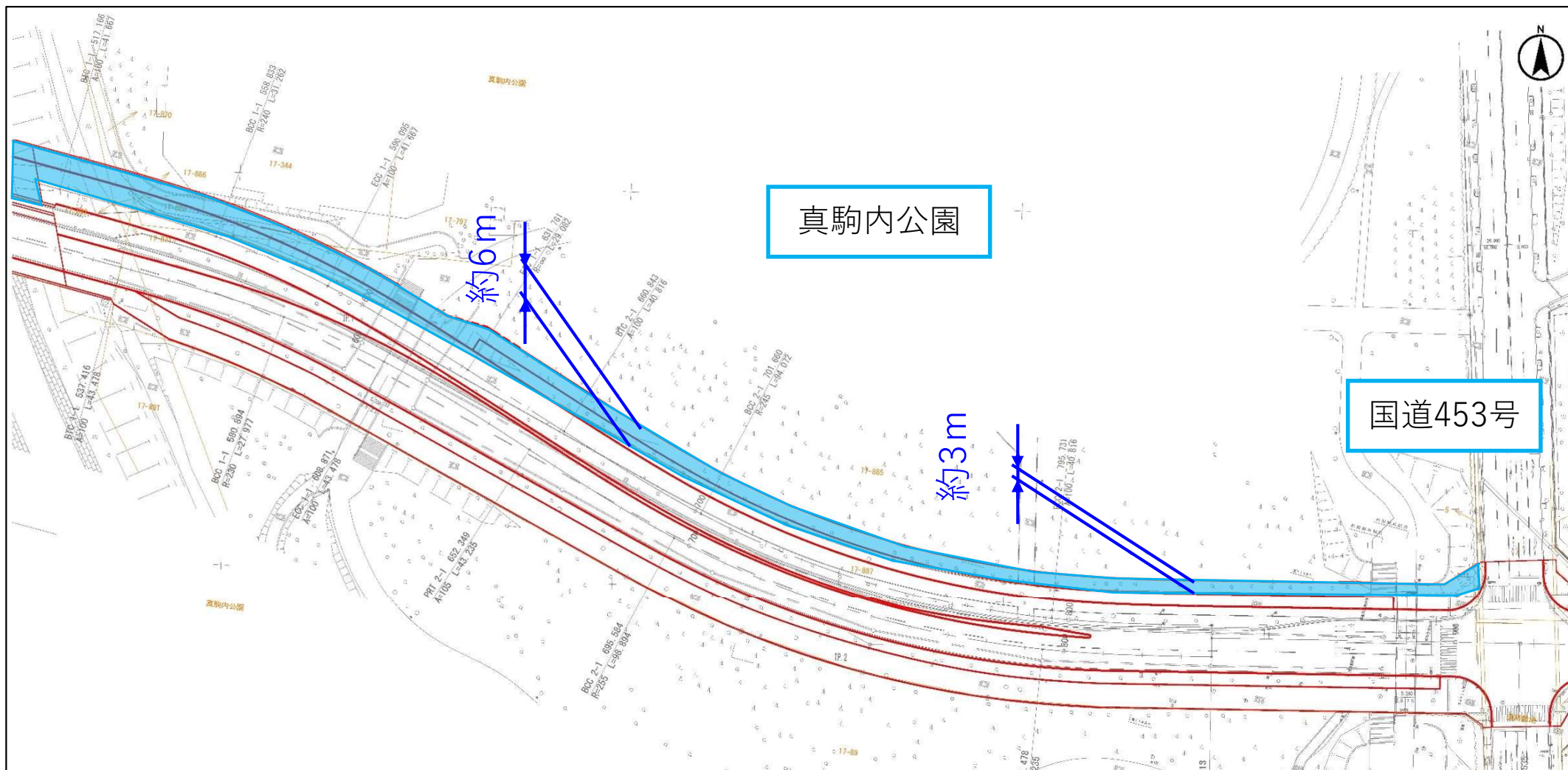
2. 道路線形・道路幅の考え方

○検討案による道路拡幅範囲イメージ



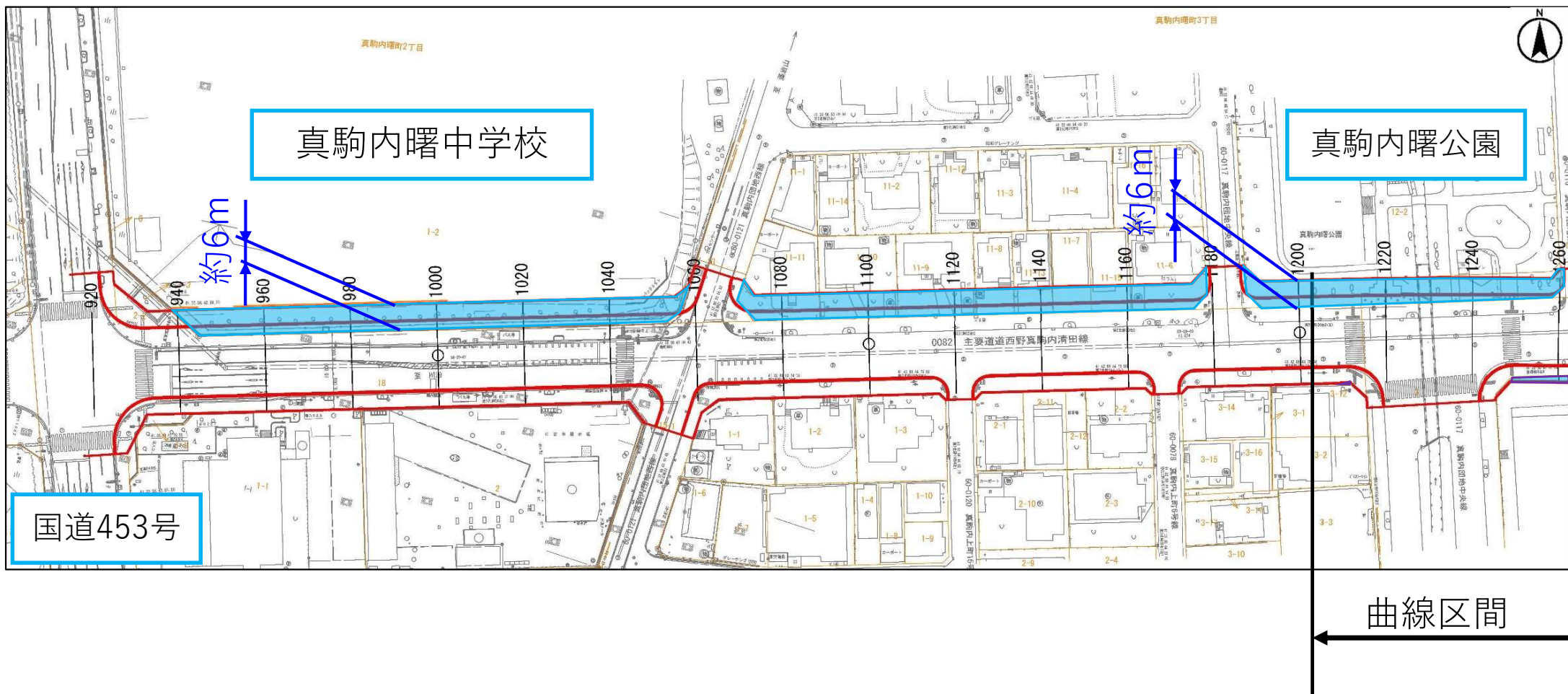
2. 道路線形・道路幅の考え方

○検討案による道路拡幅範囲イメージ



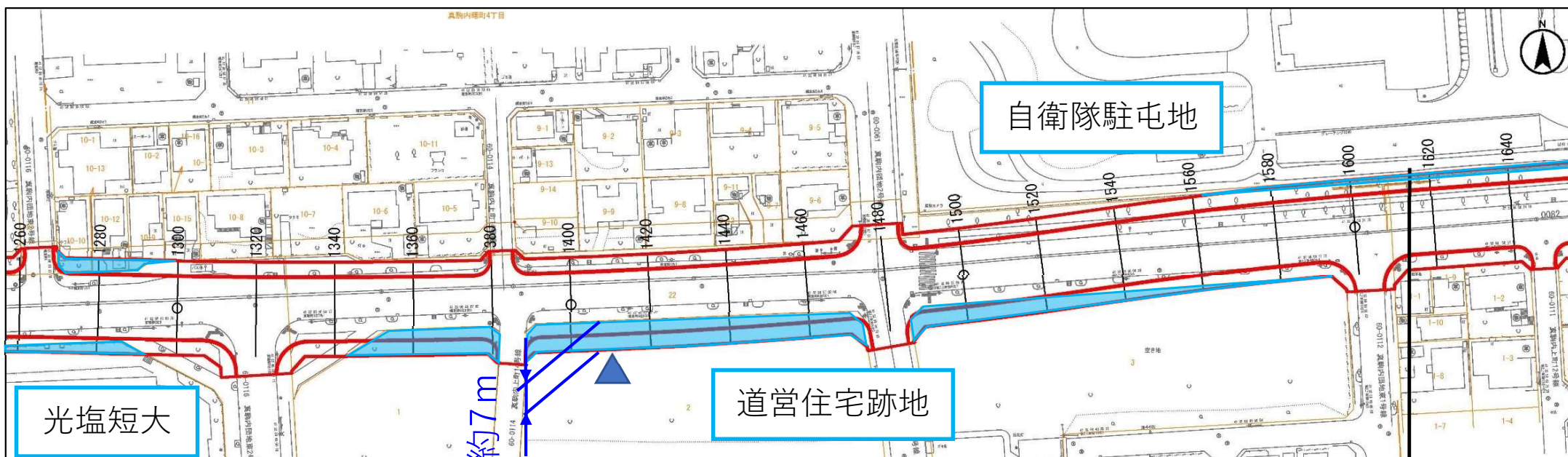
2. 道路線形・道路幅の考え方

○検討案による道路拡幅範囲イメージ



2. 道路線形・道路幅の考え方

○検討案による道路拡幅範囲イメージ

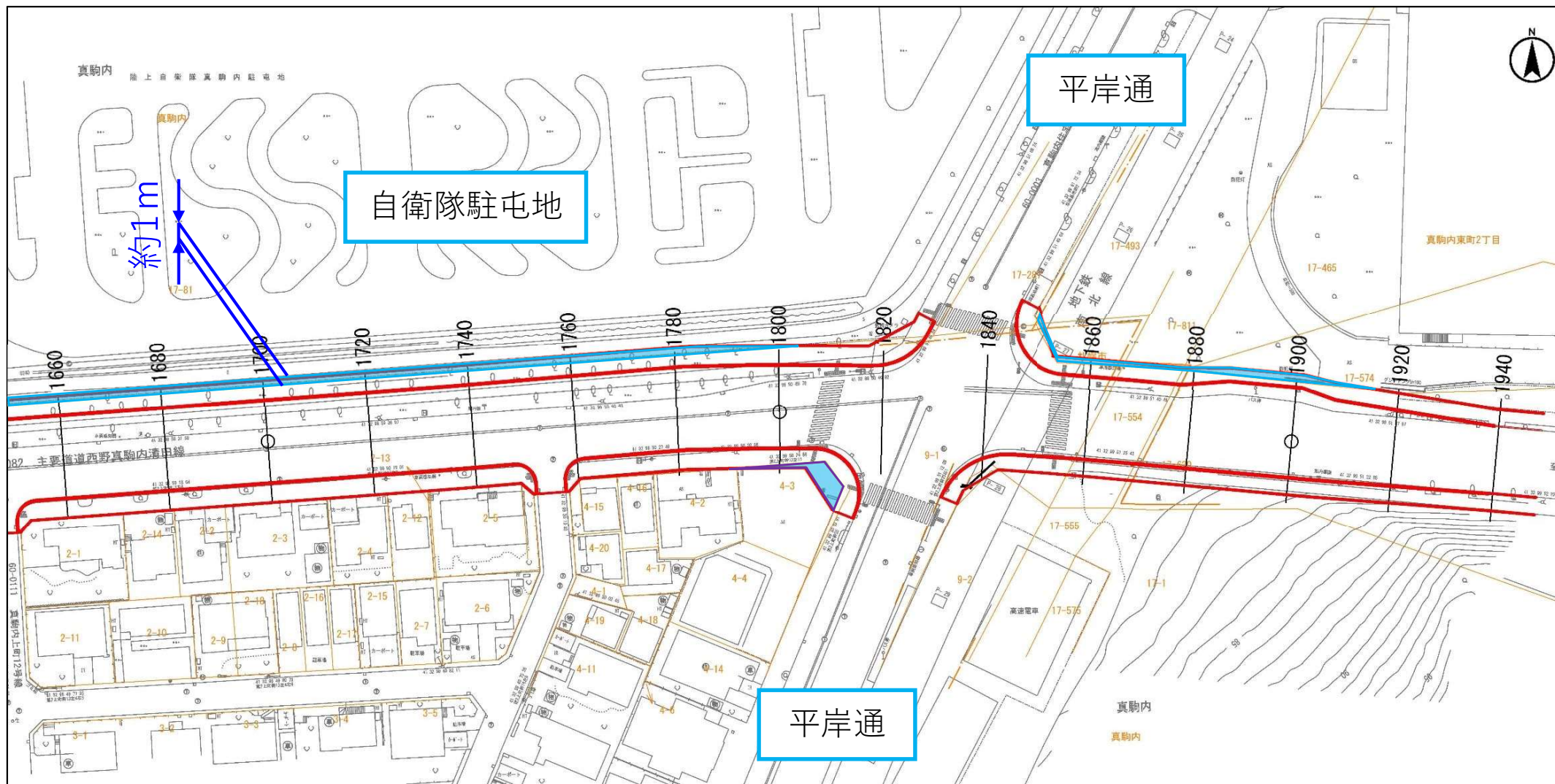


曲線区間



2. 道路線形・道路幅の考え方

○検討案による道路拡幅範囲イメージ



2. 道路線形・道路幅の考え方

○道路幅の考え方

道路の技術的基準（「道路構造令」「道路構造条例」）に基づき、**交通状況等に対応した車道幅や歩道幅などを確保**して道路幅を決定します。

【道路構造令】

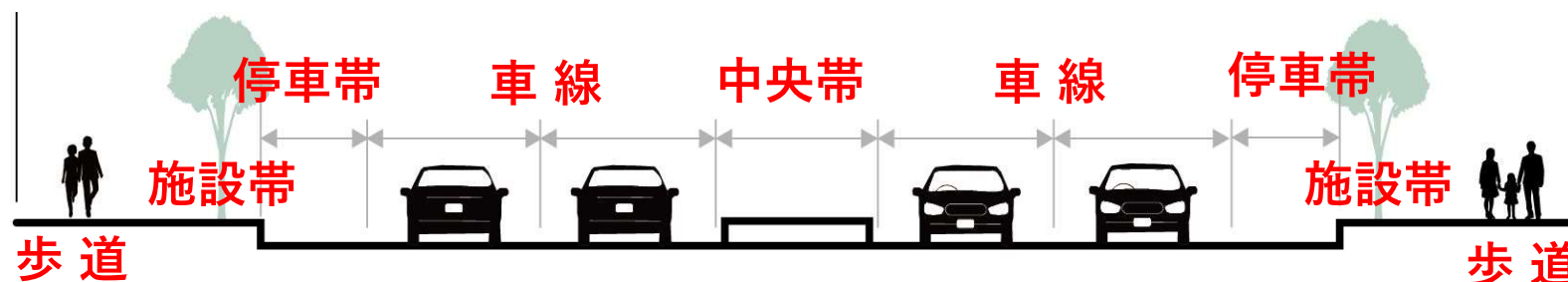
道路法第30条第1項および第2項の規定に基づき、道路を新設し、または改築する場合における道路の構造の一般的技術的基準を定めた政令

【道路構造条例】

札幌市道路構造の技術的基準及び道路標識の寸法に関する条例

2. 道路線形・道路幅の考え方

○一般的な道路の構成と役割について



車線・・・車両の通行空間

中央帯・・・上下方向の交通を分離

停車帯・・・停車車両の退避、自転車の通行、堆雪スペース等

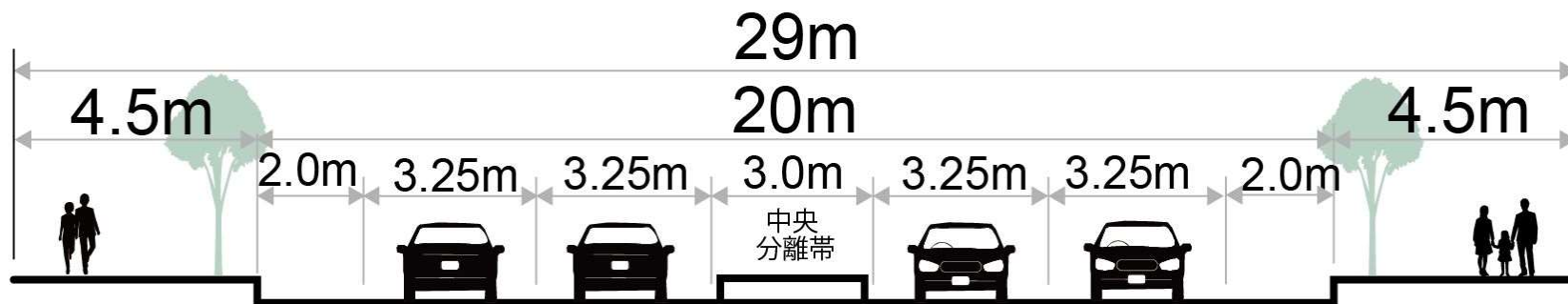
歩道・・・歩行者等の通行空間

施設帯・・・街路樹・街路灯等の設置や堆雪スペースとして利用され、自動車と歩行者を分離する空間

道路の利用状況等により必要な機能を確保する必要がある

2. 道路線形・道路幅の考え方

○ 4車線道路に求められる標準的な道路幅



- ・車線 3.25 m : 道路区分「第4種第1級」の道路に必要な車線幅
- ・中央帯 3.0 m : 対向車線との分離により高い速度での走行が可能
- ・停車帯 2.0 m : 停車車両の退避、自転車の通行、堆雪スペース等
- ・歩道 4.5 m : 自転車歩行者道 3.0m(自転車と車いすのすれ違い可能幅)
+ 施設帯 1.5m (植樹や堆雪のスペース)

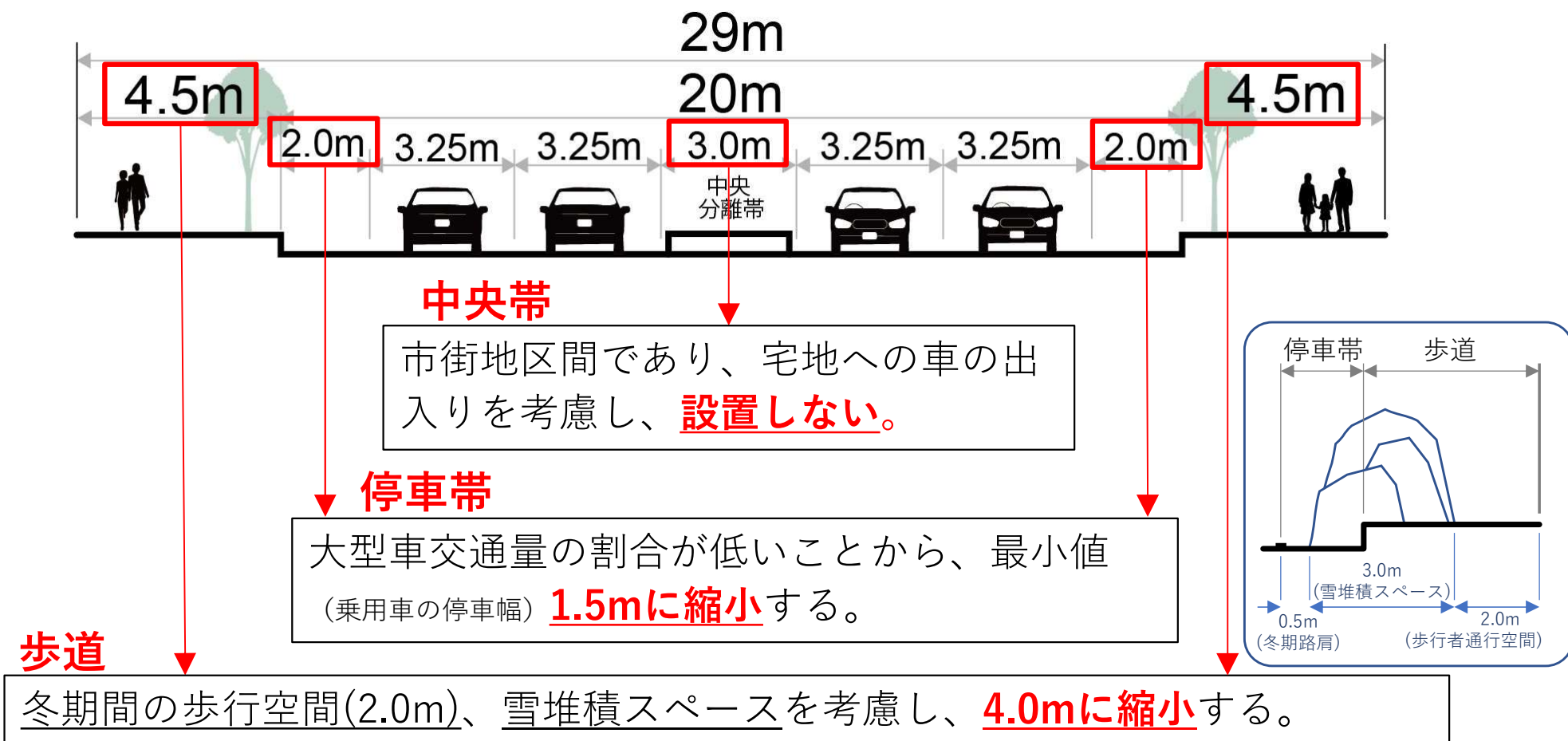
※道路構造令の解説と運用（公社 日本道路協会）、都市整備事業実務要領（北海道建設部まちづくり局）より

**11mの道路拡幅が必要となり、
沿線への影響・事業費の増大が懸念**

2. 道路線形・道路幅の考え方

○機能（幅）の縮小

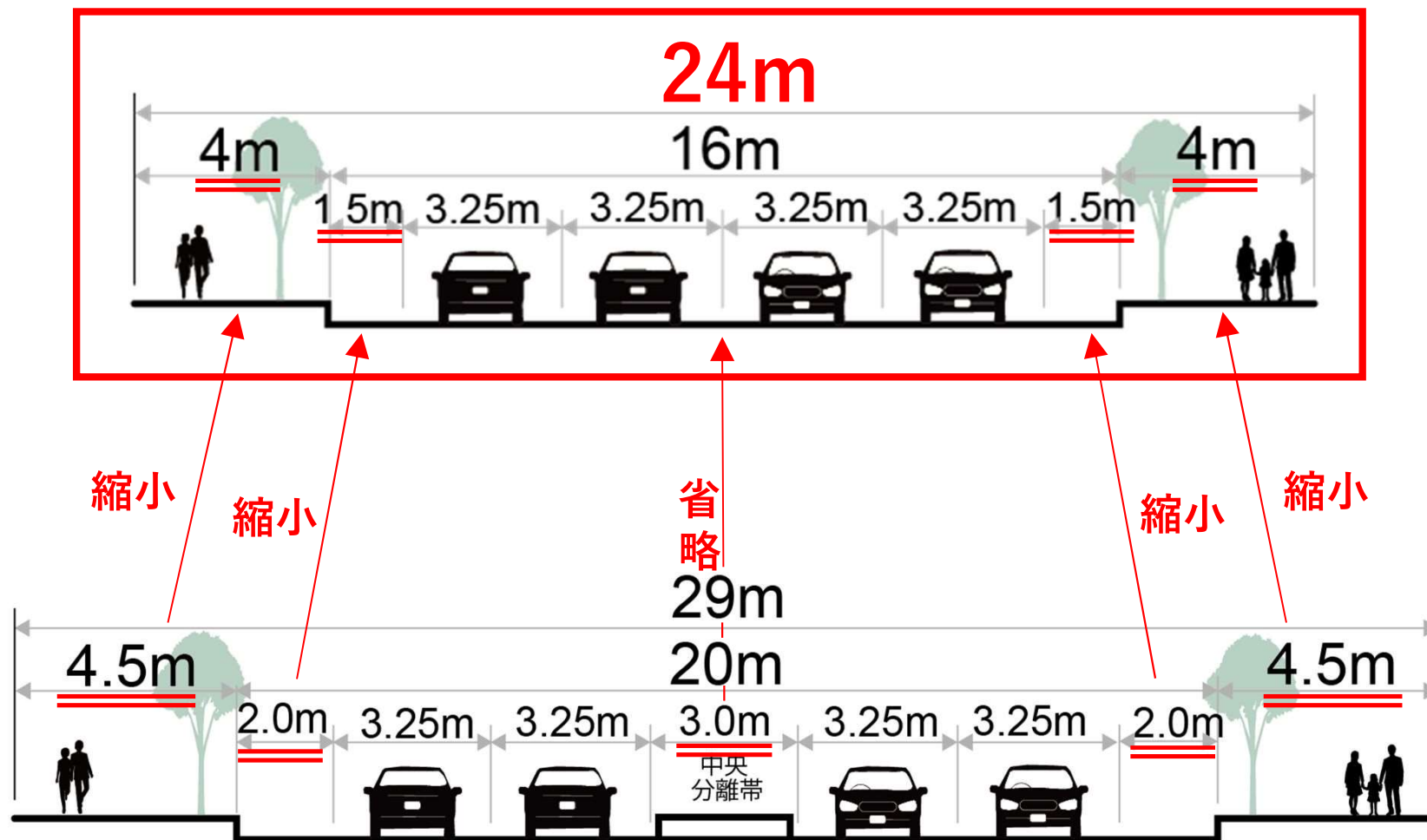
交通状況等を考慮して幅の縮小を検討



※雪堆積スペースは、歩道と停車帯の合計幅の中で確保する。

2. 道路線形・道路幅の考え方

○五輪通の計画道路幅 (国道453号~平岸通)



2. 道路線形・道路幅の考え方

○冬期を考慮した道路幅の確保

< 通常期の歩道、停車帯の合計幅 >

- ・歩道全幅員 3.5m (歩道有効幅員2.0m、植樹帯1.5m)
- ・停車帯 1.5m (縮小値)
- 合計 **5.0m**

< 冬期の歩道 (施設帯含む) と停車帯の合計幅 >

- ・冬期歩道有効幅員 2.0m
- ・雪堆積スペース 3.0m (一次堆雪幅)
- ・冬期路肩 0.5m
- 合計 **5.5m**



●歩道と停車帯の合計で幅**5.5m**確保する必要がある。

●歩道を**4.0m** (歩道有効幅2.5m + 施設帯1.5m)、停車帯を**1.5m**とする。

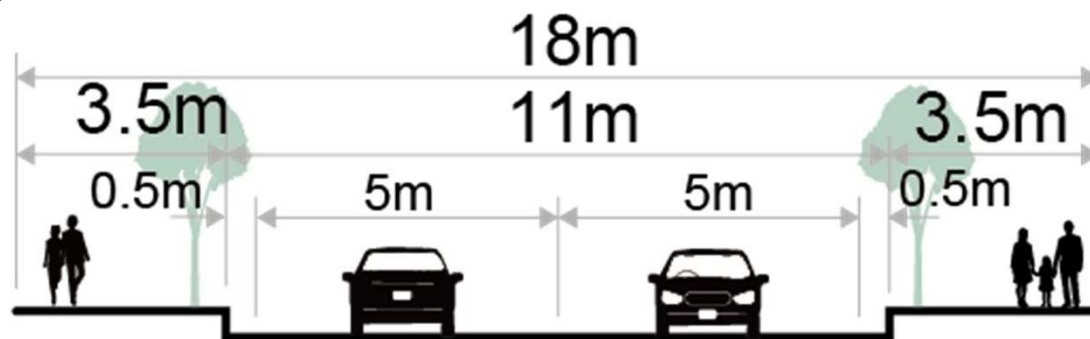


参考：堆雪スペースが狭い4車線道路の冬期間の状況

2. 道路線形・道路幅の考え方

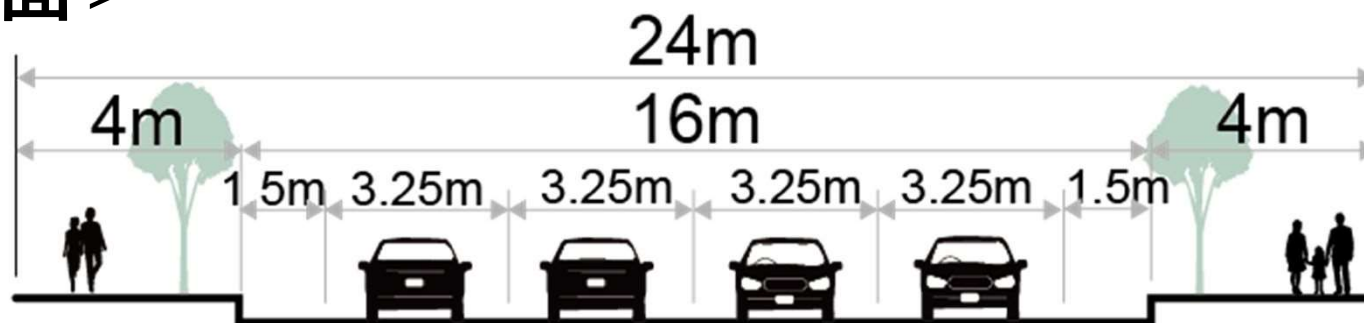
○五輪通の計画道路幅 (国道453号~平岸通)

< 現況断面 >



現況幅員に比べ6mの拡幅が必要

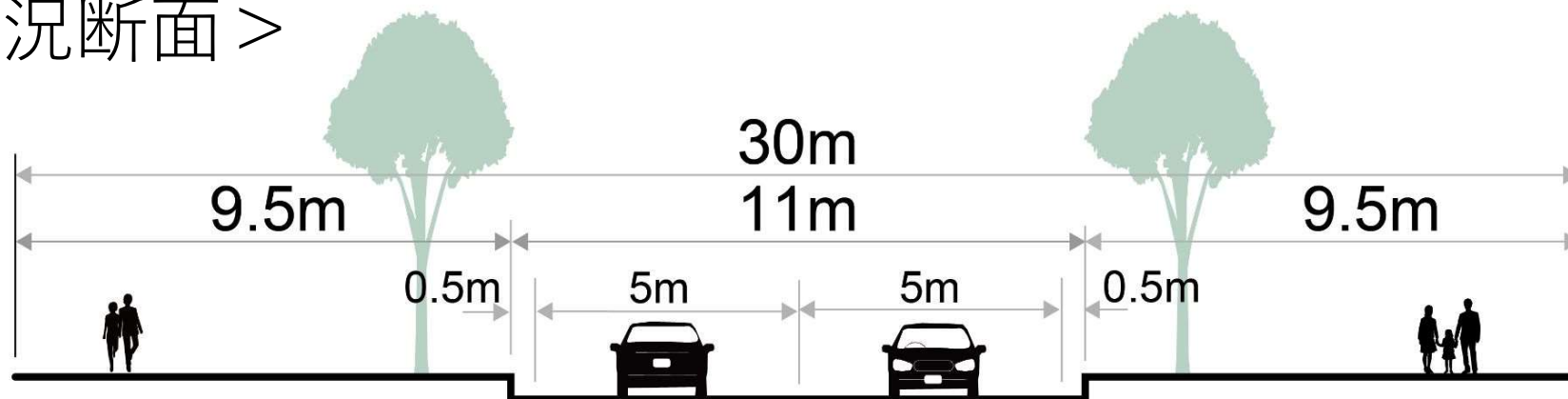
< 計画断面 >



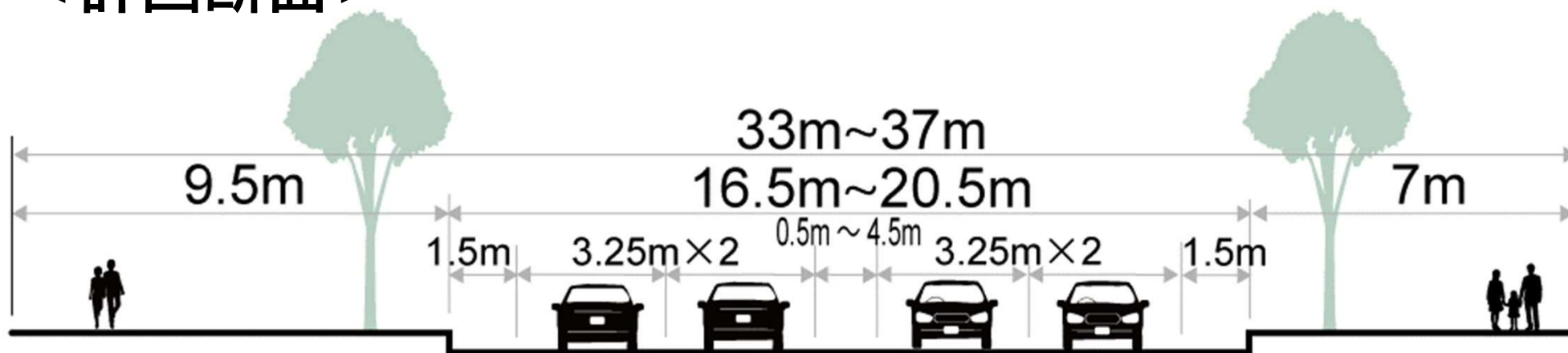
2. 道路線形・道路幅の考え方

○五輪通の計画道路幅 (国道230号~国道453号)

< 現況断面 >

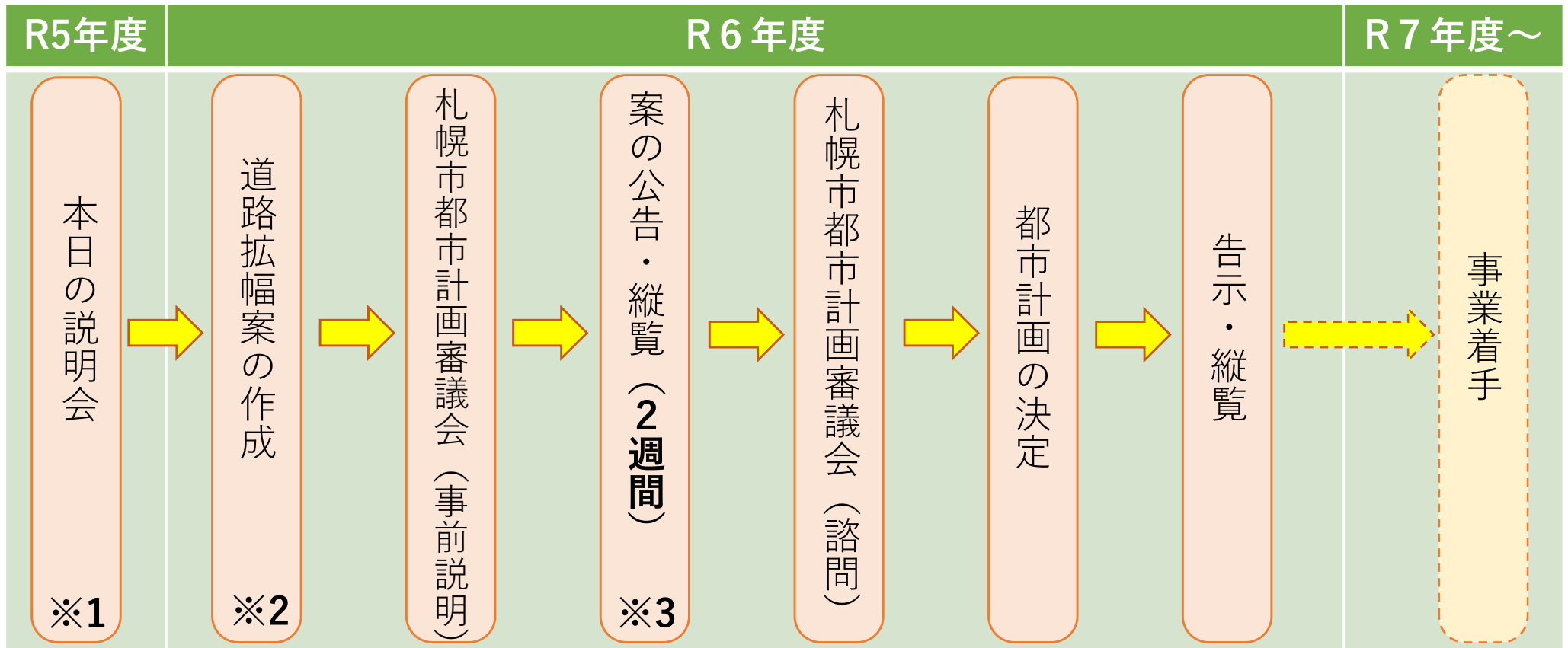


< 計画断面 >



1. 五輪通の拡幅の必要性
2. 道路線形・道路幅の考え方
3. **今後の進め方（予定）**

3. 今後の進め方（予定）



- ※1 道路拡幅案に関する質問・意見は、市の考え方を合わせて公開することとし、公開する際には別途ご案内いたします。
- ※2 これまでの説明会等でいただいた意見を参考に都市計画審議会に諮る道路拡幅案（都市公園及び南北線車両基地の変更案を含む）を作成し、公開します。公開する際には別途ご案内いたします。
- ※3 札幌市の住民や利害関係人は、縦覧期間満了の日までに意見書を提出することができます。

用地確定測量について

39

〔 予 定 〕
令和6年度

都 市 計 画 の 決 定

令和7年度

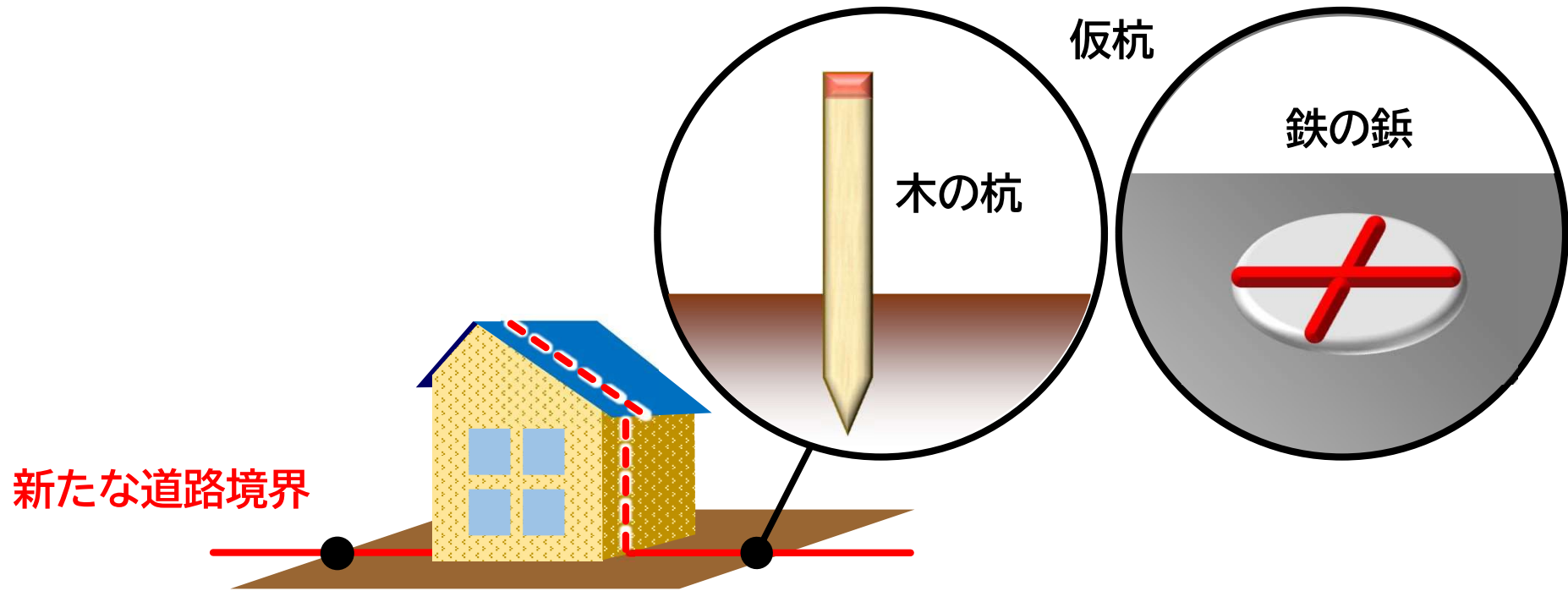
事業着手(事業認可取得)
用 地 確 定 測 量

令和8年度～

用 地 ・ 物 件 補 償

令和10年度～

道 路 工 事



- 札幌市の委託を受けた業者が、皆様の許可のもと、測量作業を行います。
- 新たな道路境界となる箇所に仮杭を設置し、境界確認書を取り交わします。

用地・物件補償について

41

〔予定〕
令和6年度

都 市 計 画 の 決 定

令和7年度

事業着手(事業認可取得)
用 地 確 定 測 量

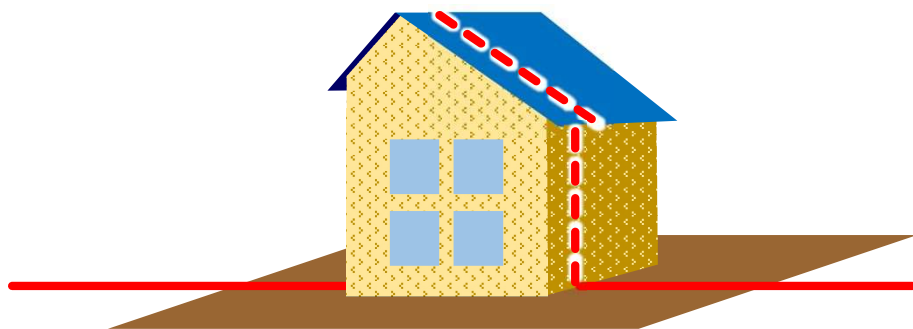
令和8年度～

用 地 ・ 物 件 補 償

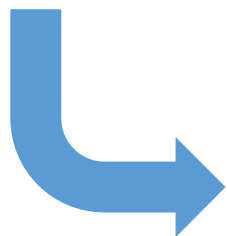
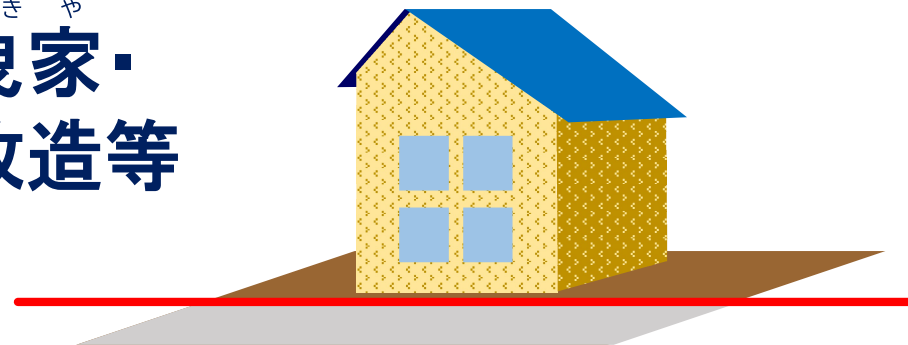
令和10年度～

道 路 工 事

用地・物件補償について



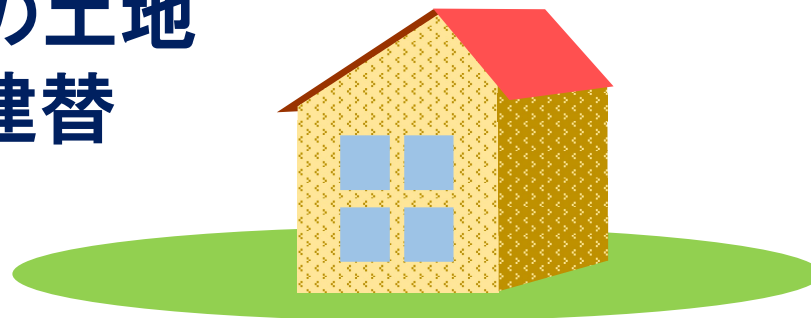
ひき
や
曳家・
改造等



残った土地
に建替



別の土地
に建替



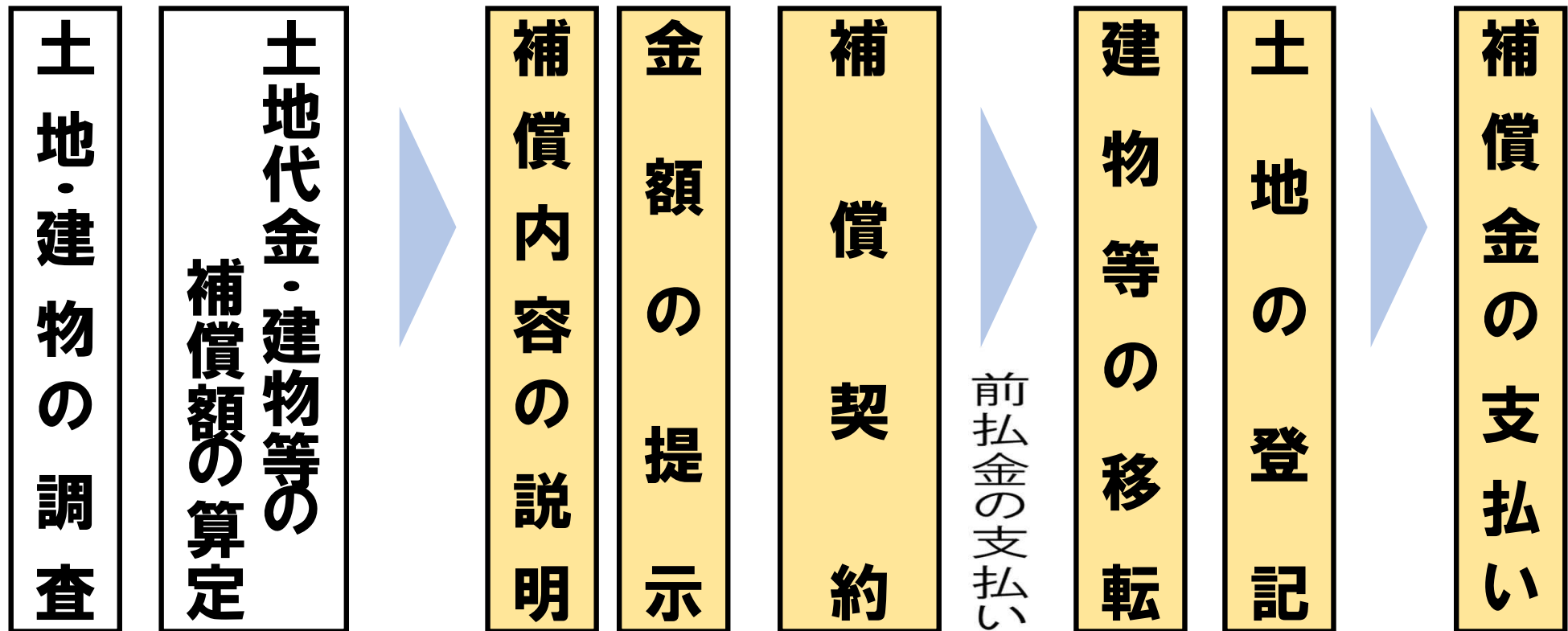
- 家屋の調査をして移転工法を決めます
- 基準に基づいて物件の現在の価値を算定します

- 補償の基準に基づいて主に以下の内容の費用を算定します。

- 土地代金
- 各種補償費
 - 建物移転補償(家屋など)
 - 工作物等移転補償(塀など)
 - 動産移転補償(家財道具など)
 - 借家人補償
 - 仮住居補償(移転の際に一時的に必要となる場合など)
 - 家賃減収補償
 - 移転雑費

用地・物件補償について

- 補償契約を締結した後、ご契約者様に建物の移転工事を行っていただきます。



- **事業着手後(事業認可取得後)に、将来道路になる土地に建物を建てたり、土地を売り払う場合には制限が生じます。**

土地・建物に関する制限(都市計画法第65・67条)

1. **建築等の制限**
2. **土地建物等の先買い**

1. 建築等の制限（都市計画法第65条）

- **将来道路となる土地に**
 - ・ **土地の形質の変更**
 - ・ **建築物の建築**
 - ・ **工作物の建設**
 - ・ **移動の容易でない物件の設置**
 - ・ **堆(たい)積**

を行う際には、札幌市長の許可が必要になります。

2. 土地建物等の先買い（都市計画法第67条）

- 将来道路となる土地や建物等を札幌市以外に売払おうとする場合は、札幌市への届け出が必要になります。
- 札幌市が届け出を受理した後、30日以内に札幌市が買い取りをするか否かを通知いたします。
- 札幌市が買取しない場合は、第三者への売却が可能です。